

心理的安全性と医療安全

心理的安全性とは、組織やチームの中で「自分の意見や考えを安心して発言できる状態」を指します。メンバーが失敗や疑問を口にしても、非難や否定を受けることなく受け入れられる環境が整っていることが重要です。

心理的安全性がない職場は医療事故を誘発する！

「これを言ったらみんなに否定される」「分からないけど勉強不足と言われそうで聞けない」「変だと思っけど先輩の意見には逆らえない」みなさんの職場にこんな雰囲気はありませんか？話せない・聞けない状態をそのままにしておくことは、それだけでも業務上のリスクとなり危険です！

分からないことを聞けない、疑問を確認できないのでは、医療職間の意思疎通が図れずトラブルを引き起こし、医療事故を起こしやすい環境につながります。

あなたの職場では、安心して自分の意見を表現できますか？

話しにくい、気になる職場の雰囲気をどう変えるの？

職場の雰囲気は、今すぐには変わらないかもしれませんが、しかし一番大切なのは「変えていこう」とするチームの力です。チーム全員が「話し合える職場を作りたい」と意思決定して取り組めば、必ず雰囲気は変わっていきます。

そのために、当たり前のようですが実は大切なことを紹介します。

- ①相手の話を遮らず、最後まで否定せずしないで聞く
- ②自分から意見を伝え、話しやすい雰囲気作りを意識する
- ③誰かの困りごとや提案に、自分の意見を伝え支援する

簡単だと思うかもしれませんが、あなたは職場で実践できていますか？

チーム力を結集することで職場の雰囲気は変わります。そして職員の関係性も変わっていきます。

心理的安全性と居心地よい職場は
異なります。
十分話し合うことが大切です。



話し合える職場は心理的安全性を醸成させます

お互いを尊重 する職場

仲間を尊重する。
コミュニケーションの場面では、相手の話を最後まで聞く、話し手の思いを尊重する関わりで対応する！

失敗を学びに 変えられる職場

失敗を責めるのではなく、どうしたら失敗に至らなかったか？改善策は？と自分事で積極的に意見交換し合う。
可能であれば他職種も一緒に...

オープンなコミュニケーションが できる職場

指導をする、指導を受けるなど立場に関係なく意見を伝え合う雰囲気を作る。
自分から積極的にチームに懸念や疑問を伝えていく！

意見交換が積極的になされ、失敗を学びに活かすことができれば、おのずとトラブルは減少します。一人一人が意識的・建設的にチームに関わることで心理的安全性が保たれる職場を作っていきます。否定を恐れず日頃から職場で語り合いましょう！

うちの職場では難しい！と言う前に、自分から3つの実践に取り組んでみませんか？

